

比較文化会報

March. 2001 No.21

本部事務局 青森県弘前市稔町13-1

弘前学院大学英米文学佐藤研究室 Tel. 0172-34-5211 内線216

発行者 芳賀馨 編集者 太田敬雄

第23回大会開催校の亀田政則先生からは11月の段階ですでに原稿を頂戴していましたが、それもそのままになっております。期節はすっかりずれてしまいましたがここにお詫びをもって掲載させていただきます。

福島へようこそ

南東北支部長 亀田政則

福島はもう冬。福島市街を抱いてひろがつ吾妻連峰も雪化粧です。通勤バスの窓からは、みごとな紅に染まった街路樹の葉が太陽に透かされ、美しく輝いているのが見えます。その紅は見るひとのころまで染め挙げるような紅です。

*

「砂漠が美しいのは、その下に地下水が流れているからさ」というようなことを言ったのは、たしか星の王子様だったと思います。冬という期節もそれに似ています。野山は枯れているのだけれども、大地の下には、芽吹く「時」を静かに待望する生命が宿っています。なにもない冬枯れた野山もまた、それゆえに、美しいのです。

*

二〇〇一年度の全国学術大会で会員みなさまとお会いするとき、福島の地には若葉が茂り、果実の花々が先ほころんでいる頃でしょう。さる篤志家が自ら手植えされた木々の花が咲き乱れる「花見山」もお待ちしております。

会場となる福島県立医科大学看護学部は一九九八年設立。みなさまに快適な空間を提供できることでしょう。支部会員一同こころ待ちにしています。

*

福島の人々は自分たちの時間を穏やかに送っているせいでしょうか？動作にも言葉にも和みがあります。「上がらんしょ。」「食わんしょ。」「飲まんしょ。」（どうぞ、お上がりください。どうぞ、召し上がってください。どうぞ、お飲みください。）という言葉にも、その和

(裏面に続く)みをご覧ください。比較言語学をご専攻の会員のみなさまには、豊かな資料を提供する土地と言えましょう。ある研究者曰く、英語と福島弁(ふぐすまべん)には音声学的に共通するような特徴が見られるとのこと。

*

全国大会の主題は「文化の〈比較研究〉とはなにか」です。シンポジウムもこの主題をめぐっておこなわれます。また、この主題を明確に意識した各領域からの研究発表も期待しております。支部では、会員のみなさまが楽しいひとときを過ごされ、学術的にも親交をおむすび戴けますように配慮したいと思います。是非、福島へお出かけください。お待ちしております。

第23回大会案内

時 2001年6月9日(土)～10日(日) 福島医大では土曜に授業がある関係上今回は2日にわたる大会となります。

開催校 福島県立医科大学看護学部

問合先 〒960-1295 福島市光が丘1番地
福島県立医科大学看護学部基礎部門(外国語) 亀田研究室
TEL/FAX (024)547-2365 e-mail: albertm@cn.fmu.ac.jp

日程(案) 6月9日(土) 午前 理事会
午後 研究発表、懇親会

6月10日(日) 午前 シンポジウム、研究発表

研究発表希望者へ

申込期限 今年4月末日とします。それまでにレジメを下記までお送り下さい。なおレジメはB5版1枚とし、頭にタイトル、発表者の所属、氏名を記し、左右余白をそれぞれ2センチほど残して下さい。今年準備が遅れておりますので、期日を厳守して下さい。

申込先 〒379-0124 群馬県安中市鷲宮3413-3
NPO法人国際比較文化研究所 太田敬雄
TEL 027-382-2117 FAX 027-382-6393
e-mail: tota@mail.wind.ne.jp

シンポジウム講師の推薦：シンポジウムの講師推薦およびお問い合わせ

わせは福島医大の亀田先生に御連絡下さい。

会費納入のお願い

本年度（2000年度）会費未納の方は恐縮ですが郵便振替にて年会費3000円を下記宛お振込ください。なお、重複してお支払いがありました場合は2001年度分として入金させていただきます。

口座番号 02570-6-8921 加入者名 日本比較文化学会

第22回大会総会報告

1、議題

(1) 2000年事務局代行について

弘前学院大学の佐藤事務局長が海外渡航されたため、事務局を国際比較文化研究所に一時的に移転し、事務局を太田敬雄氏が代行する。

(2) 会計報告

1998年度の収入、支出とも1,703,676円であった。（詳細略）

(3) 理事選出について

a) 成沢義雄氏（新規）(b) 阿部晃直氏（井上理事の後任として）の両氏を理事として承認。

(4) 韓国日本文化学会との提携について

研究大会への相互参加、論文審査、会員の相互交流を目的に韓国日本文化学会との提携を推進する。

くなお、この決定を受けて、同学会の片茂鎮会長と打合せの上、昨年秋に韓国、大田市で開催された大会に芳賀会長、太田事務局長代行が出向き提携書を交換しました。具体的な交流等についてはさらにつめる必要がありますが、現在、JACCで要請のあった論文審査を引き受けたり、あるいは研究大会での相互の会員の研究発表の推進等をすすめています。本年4月の韓国での大会には本学会を代表して東北学院大学の成沢義雄氏に発表していただくことになりました。なお、今後韓国日本文化学会での発表を希望されるかたは太田までお問い合わせください。4月と10月の年2回のペースで大会が開催され、毎回1名を推薦することができます。

また、論文審査につきましては今回は会員の堀江晋氏、渡辺淳子氏、高山有紀氏に御協力をいただきました。急な査読のお願いに快く応じて頂いた各先生に御礼申し上げます。>

(5) 『比較文化研究』の発送について

同紀要の発送については、かねてより懸案だったが、1年間の予定で国

際比較文化研究所（所長 太田敬雄）でまとめて発行することとなった。この試みを継続する場合には学会費の値上げなど経費面の検討が必要となることが確認された。

また、『比較文化研究』は、特集号も含めて、650部を国際比較文化研究所の太田まで御送付いただくようお願いしている。そこから、全会員ならびに支部宛に送付することとする。

（6）第24回大会について

2002年の大会は中国・四国支部が主管。高知大学での開催が検討されている。

＜事務局便り＞

事務局の代行を引き受けてほぼ一年、しみじみと事務局の大変さを味わっております。今、手許に99年12月に楠先生が結果的に最後のお仕事として編集・発行された「会報」を見ながら改めて氏の在りし日のお姿を偲んでいます。

本来昨年中に発行されるべき会報も結局年を越し、3月となってしまいました。巻頭の亀田先生原稿もすっかり時期外れとなってしまい恐縮しています。

また、毎号掲載されております支部報告につきましても、各支部から御連絡を頂きながら、掲載できないままでの「会報」の発行となってしまいました。原稿をお寄せ下さっていた各支部にお詫び申し上げます。

学会誌『比較文化研究』は年に4回、ほぼ順調に発行されています。今回お届けします51号（南東北支部発行）に続き、近い内に52号（関西支部発行）も完成の予定です。これからの投稿を御検討の会員は3月締め切りの九州支部（長崎ウエスレヤン短大南川研究室）もしくは5月締め切りの関東支部（新島短大前田研究室）宛てお問い合わせください。

「日本語教育研究部会」（部会長奥村訓代）から「部会名を「日本語・日本文化研究部会」とし、9月を目標に特集号を組もうと考えています。」との申し出を受けています。

「会報」のフォーマット等も時間の都合でパソコンからプリントアウトして直接印刷したため、従来のものとは異なってしまいました。次号からは本来の姿に戻していただけるようお願いしています。

事務局代行・会報編集

379-0123 安中市鷲宮3413-3

NPO法人国際比較文化研究所 太田敬雄

Tel. 027-382-2117 Fax. 027-382-6393

e-mail tota@mail.wind.ne.jp